

津久井やまゆり園事件の「真逆」がスウェーデンで

文教大学 星野晴彦

スウェーデン研究の大家でだれもお名前を存じ上げている岡沢先生のお話を聞けてとても面白かったです。社会民主党がこれだけ実は少数で、でもしたたかだとは思っていませんでした。存じませんでした。

私もスウェーデンは尊敬しております。そして今アメリカ化する日本の危機を打開するにはスウェーデンを学ぶしかないと思っています。

岡沢先生のお話で「ほどほどの国」「よくわからない国」「EUに加盟しておもしろくなくなった」などというお言葉がありましたが、そうおっしゃりながらも、日本の政策の危機に関してスウェーデンを参考にした提言を随所に行われておられることがわかり、先生が心の底からスウェーデンを愛しているのだなと思いました。

私はスウェーデンを単に理想的な国だとは思っておりません。岡沢先生のご説明にもあったように極めて合理的な判断をしている国だと思います。有名なリーダーの名前も出ていましたが、その人たちもすごいのは当然ですが、それを支持した国民の存在もすごいと思います。そして企業の競争力の存在も見落とされがちですが、忘れてはならないと思っています。

ゆきさんが「えにしの会」第三部で取り上げた「福祉人材をやまゆり園事件」という企画から見えてきたことの真逆がスウェーデンで行われていると思います。つまり津久井やまゆり園事件という、人里離れた知的障害者の多人数の入所施設が存在していること。それに疑問を感じずに存在してきたこと。神奈川県が経費削減のために民間施設に委託して、経費削減を図ろうとしたこと。そこには職員の希望者が少なくなっていること。そして良質の人材の確保が難しくなっていること。そして県知事が事件後同じような施設を作ろうと言ったこと(ゆきさんたちの運動で再考されることとなりました)。

人間が人間らしく生きることを許されない社会が存在しているということです。

ただ「スウェーデンでは」というのではなく、何が根本的に違うのかを考える必要があると思います。「えにしの会」第三部でも北欧ではこうなっていると言った人もいましたし、それに対して日本でも努力している人がいるのだからと反論する場面もありました。

ここは岡沢先生のお話に合ったスウェーデン人の合理的な叡智というものがなぜここまで実現したのかを考える必要があるのではないかと思います。

「EUに加盟しておもしろくなくなった」と岡沢先生はおっしゃっており、確かにボルボは外国資本に吸収され、また福祉の民間委託も進み、自治体格差も広がっていると聞きますが、それでもここまで刷り込まれたものが依然として残っているのは、この叡智が自分たちの生き残る道だという確信があるからだだと思います。これだけスウェーデンの情報が入りながらも、真逆の道を歩み続ける日本を見つめる良い視点となります。

どうもありがとうございました。